

# 平成29年度 第1回 加齢研交流セミナー

6/26 (月) 16:00-17:10

@実験研究棟 7F セミナー室(1)

16:00-16:30

分子腫瘍学研究分野 國安 絹枝 先生

見過ごされてきた僅かな異常ががんでの異数性細胞の蓄積につながる

正常なヒトの体細胞では染色体数は46本で安定的であるが、多くの固形がんでは染色体数の異常（異数性）が認められ、その背景には高頻度の染色体分配異常（染色体不安定性）が存在する。染色体不安定性をひき起こす要因として、染色体分配過程に何らかの異常があることが予想されるが、染色体分配に必須の機構の異常は細胞にとって致死的であり、がんで見られる異数性細胞の蓄積には繋がらない。そこで本研究では、分裂期に機能するが細胞の生存には必須ではない分子の発現量の変化や、染色体数を倍化させた細胞を用いて染色体整列の僅かな効率性の低下を誘導することにより、染色体不安定性がひき起こされることを明らかにした。本セミナーでは、効率的な染色体整列と染色体安定性との関係について報告したい。

16:30-16:40 コーヒーブレイク

16:40-17:10

人間脳科学研究分野 鈴木 真介 先生  
学際科学フロンティア研究所

計算論的社会脳科学への招待：  
社会的意決定を支える神経機構の解明へ向けて

我々ヒトは社会を形成し他者と陰に陽に相互作用しながら生きています。このような環境では、「他者とうまくやる、つまり、適切な社会的意決定を行う」ことが生存に不可欠です。発表者は「ヒトの社会的意決定を支える脳計算」の理解を目指して、実験と計算論的アプローチを融合させた研究を行っています。具体的には、実験中の被験者の意決定パターンを再現できるような数理モデルを作り、そのモデルを機能的磁気共鳴画像法（fMRI）で計測した脳活動と比べることで、「ヒトが社会的意決定を行う際に脳がどのような計算を行っているのか？」の解明を目指しています。本セミナーでは、「ヒトはどのように他者の行動を予測するのか？」について調べた発表者の研究を中心に紹介します。